令和８年度　立川市立第六小学校　授業改善推進プラン

学校の教育目標	○考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
○基礎・基本を身に付け、よく考え、自分からすすんで活動する力（考える子） ○健全な人権感覚をもち、温かい心で支え合う力（思いやりのある子） ○自他の生命と安全に関心をもち、心身ともに健康で明るく過ごす力（元気な子）	・「立川市民科」に取り組み、教科横断的な学習を図る。 ・校内研究「主体性をもつ児童の育成」の実践の中で、自己肯定感や自己有用感を高め、自ら考えて行動し、思いや考えを伝えられる児童の育成を目指す。 ・児童の「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を育成することを目指した授業改善を図る。

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	○言葉を通して情報や考えを的確に理解し、自分の考えを深める力 ○言葉を通して他者と関わり、自分の考えを表現し、伝え合う力	・個人及びグループでの学習を通し、目的や意図に応じて必要な材料を集め、それらを比較、分類して関係付けながら、整理したり友達に伝えたりする活動を多く取り入れた指導を行う。 ・図や表などの情報を関連付けて自分の考えを書く活動や、事実と感想、意見とを区別して書く活動を取り入れる。 ・物語文だけでなく、図表が用いられている説明的な文章に触れる機会を朝学習や朝読書などの時間帯に多く設定し、自分の生活と関係付けて考える意識をもてるようにする。言語活動において、詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動を意図的に取り入れた指導を行う。
社会	○社会の出来事や課題を多角的に捉え、自分の考えを深める力 ○社会との関わりを意識し、自分の考えを表現し合って、選択・判断する力	・身近な題材を教材化したり、教師が使用する資料を精選したりし、資料をしっかりと読み取る活動を取り入れた指導を行う。 ・資料から読み取ることだけでなく、なぜそうなったのか等の時代背景を考えさせたり、複数の資料を関連付けて共通するキーワードを考えさせたりする活動を取り入れた指導を行う。 ・単元のまとめに、教科書の二次元コード等を活用し、学習を振り返り、学習問題に対する自分の考えを明示された「キーワード」を用いて、まとめる指導を継続的に行う。 ・調べたことを基に、分かったことや気付いたことをグループで交流し、その内容を全体の場で共有する活動を取り入れ、協働的な学びが自然な形でできる指導の工夫を行う。
算数	○数量や図形に着目して筋道を立てて考え、問題を解決する力 ○考えたことや解決の過程を表現し、伝え合う力	・毎週の朝学習で、東京ベーシック・ドリルやワークシートに取り組ませる。また、計算ドリルや AI ドリル等も繰り返し活用し、学習の定着を図る。学期に一度、診断テストを行い、学習の定着状況を把握する。 ・線分図、テープ図、数直線図等を用いて数量関係を視覚的に提示させ、問題を処理する力を高められるようにする。 ・文や図、表、グラフ等を活用して自分の言葉で表現し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする時間を十分に確保する。 ・データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、必要な情報を読み取る力や、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解できるようにする。 ・図や式などを用いて、基準量と比較量の関係を表す力を身に付けられるようにする。 ・自分の考えを言葉や式・図・表・グラフ等を使って、ノートにまとめたり、伝え合ったりできるようにする。 ・ICT 機器を活用し、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりする活動を取り入れる。

理科	○自然事象に関心をもち、すすんで関わりながら、根拠を基に考察し、探究する力 ○実験・観察を通して、考えたことを表現し、伝え合う力	・「問題」→「予想」→「実験・観察」という手順をふみながら、筋道立てて考える時間を確保する。 ・実験から得られた結果を基に問題に対して考察する活動を積極的に取り入れる。 ・実験から得られた結果を考察しながら、話し合いをもとにして、「問題」に対する「結論」を導く。
生活	○身近な人やもの、こととの関わりの中で気付き、自分の考えを深める力 ○気付いたことや考えたことを表現し、伝え合う力	・異なる意見や考えを知り、合意形成していく過程も学習と捉え、体験した事柄を伝え合うなど、交流する活動を意図的に設ける。 ・目的に合った表現形態（絵、新聞、ポスター、劇等）を児童自らが考え、工夫できるように、それぞれの学習の観点を明確にした指導を行う。 ・観察・体験の最中に気付いたことを1つだけ書く、言う時間を必ず入れる。 ・「色・形・動き・におい・音」などの視点を伝え、その気付きを比較させる。 ・ICT機器で撮った写真に一言理由や疑問、気付きを添える記録を習慣化する。 ・活動に見通しをもたせ、意欲や関心を継続できるように、他学年との交流活動や体験的な学習を取り入れた指導を行う。 ・「どうしてそう思ったの？」をペアで1回ずつ言い合うミニ対話を取り入れる。 ・「前はこう思っていたけど、今日はこう変わった」を毎時間の振り返りに入れ、自分の考えの変化を言語化する。
音楽	○音や音楽の特徴やそのよさを感じ取る力 ○音楽を通して他者と関わり、伝え合いながら自分の思いを表現する力	・歌詞や曲想について理解し、思いや意図をもって表現ができるよう、児童に考えさせる発問を工夫する。 ・ICT機器などの教具を適宜活用し、個々の実態に合わせて取り組み方や目標を選択したり、振り返りをしたりして自分で課題を見付け解決できるようにする。 ・個人、少人数、全体の学習形態を往還することで異なる考え方や感じ方に気付かせ、関わりを通して自分に生かせるようにする。
図画工作	○材料や用具の特徴を理解し、形や色などの造形的な視点からイメージをもち、自分なりの意味や価値をつくり出す力 ○活動や制作を通して、感じたことや考えたことを表現し、伝え合う力	・色や形、感じについて自分なりのイメージをもてるよう、材料や用具を試したり慣れたりする時間や試行錯誤ができる環境を設定する。 ・一人一人の思いを広げられるよう、発問や演示を工夫する。 ・見る視点を共有した上で、活動や作品を見合う機会を設定する。 ・自らの活動を価値付け、感じたことを整理できるよう、活動後は振り返りを行う。
家庭	○生活を見つめ、課題を発見し、よりよい生活を創り出す力 ○生活を工夫したり実践したりしたことを表現し、伝え合う力	・安全な器具・用具・道具の使い方をICT機器で学習した後、実際に使って確認する。 ・技能を身に付けるためのポイントを明確に示し、スモールステップで取り組むことができるようにする。 ・家事の様子を基に、家族の一員としての役割が果たせるような学習課題を設定する。
体育	○運動や健康について理解し、自らの課題を解決する力 ○仲間と関わりながら考えや気付きを伝え合う力	・授業のウォーミングアップに、ゆりかごやしゃがむ動き、ジャンプなど、腹筋や跳躍力を高める運動を取り入れる。全校で行う「なわとび週間」を活用し、持久力や跳躍力を付ける指導を行う。 ・グループで練習をする活動を取り入れたり、技術面や取り組み姿勢に対する振り返りの時間を設けたりし、友達との関わりを通して学習の質を高められるようにする。
外国語	○外国語を通して相手の考えや思いを理解する力 ○外国語を用いて自分の考えや思いを表現し、伝え合う力	・身近な題材を教材化したり、ICT機器を活用したりするなど、児童が意欲的に活動し、視覚的に外国語の表現や、多様な文化について理解しやすくする。 ・授業の流れを視覚化し、見通しをもたせる。「グリーティング」「ウォームアップ」→「アクティビティ」→「レビュー」「グリーティング」という手順で授業を展開し実際のコミュニーケーションにおいて活用できるようにする。 ・自分の気持ちや、考えを伝え合う言語活動を毎時間設けることで、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・毎時間のめあてをはっきりさせ、学習を振り返ることで、その時間にどんな力を身に付けたかを一人一人が意識し、単元終末の言語活動に意図的に取り組めるようにする。